

# 令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	地理歴史	科目	地理A	単位数	2	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	高等学校 地理A ～世界に目を向け、地域を学ぶ～			副教材	なし				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				①	②	③	④	学習のねらい	
1 学期	4	第1章 地球儀や地図でとらえる現代社会	1 球面で世界をとらえよう	2 世界地図の特徴を知ろう		○	◎	<p>一学期は現代世界のさまざまな地理的事象を理解し、考察するために必要な地理的技能を、さまざまな地図の読図や作図などの作業的、体験的な学習を通して学習します。</p> <p>二学期は、自然環境、資源と産業、人口や都市・村落、生活文化や民族・宗教など、テーマごとに地理的事象を取り上げ、分布や空間的な広がりについての考察を通して、地球的な視野から地理的事象を学習します。</p> <p>三学期は、第1編で学習した地理的技能と第2編で学習した系統地理的な知識や概念を活用して、世界の諸地域の特色や課題をとらえるために、歴史的背景を踏まえながら多面的・多角的に学習します。</p>	
			3 世界観の広がりや地図	4 国家の領域と領土問題	○		◎		
	5	第2章 世界の人口と生活を取り巻く地理的環境	5 国家を超えた結びつき	6 交通機関の発達と縮小する地球世界		○	◎		
			7 情報・通信で一体化する世界	8 人・もの・資本で結びつく社会	◎	○			
			1 さまざまな環境の中で暮らす人々	2 世界的視野から見た地形		○	◎		
	6	第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	3 さまざまな地形と生活	4 世界的視野から見た気候		◎	○		
			5 世界の気候と生活	6 世界の民族のさまざまな生活・文化	○	◎			
7	第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	1 東アジアの暮らしを学ぶ	2 東南アジアの暮らしを学ぶ			○ ◎			
		期末考査		○ ○ ○ ◎					
8		3 南アジアの暮らしを学ぶ	4 北7/7(カブ)7・中央7/7の暮らしを学ぶ		○	◎	学習の目標		
2 学期	9	第4章 さまざまな地球の課題	5 中南アフリカの暮らしを学ぶ	6 ヨーロッパの暮らしを学ぶ		◎	○	<p>現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、現代世界の地理的認識を養います。</p> <p>現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養います。</p> <p>地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養います。</p>	
			7 077と周辺諸国の暮らしを学ぶ	8 7/7の暮らしを学ぶ	◎	○			
			1 地域の違いとつながりに注目する	2 人口問題	3 食料問題		○		◎
	10	第4章 さまざまな地球の課題	中間考査		○ ○ ○ ◎			① 関心・意欲・態度	
			4 都市・居住問題	5 資源・エネルギー問題	6 地球環境問題	◎	○		<p>地理的諸事象、ないしは現代世界の諸地域や諸課題に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ、結びつけることができるか。</p>
			7 地球的課題への取り組みと国際協			○	◎		
			1 日常生活と結びついた地図	1 地図をもって生活しよう	2 身近な地図を読み返そう		◎	○	
	3 地図表現について考えよう	4 地形図を活用しよう		○	◎				
	11	第2章 自然環境と防災	期末考査		○ ○ ○ ◎			<p>地図化する過程を通じて地理的諸事象をさまざまな角度から分析・考察・解釈し、地理的概念や規則性(地理の見方・考え方)を見いだすことができるか。</p>	
			1 日本と自然と生活	2 自然災害に備えた暮らし		◎	○		
3 学期	1	第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	1 地域調査の方法		◎		○	<p>地理学習に必要とされるさまざまな資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査・分析することができるか。</p>	
			2 水とともに暮すまち「白山市」を考える		○	◎			
	学年末考査		○ ○ ○ ◎			④ 知識・理解			
	2	家庭学習						<p>地理的諸事象や現代世界の諸地域の特色、諸地域で起こっている諸課題についてさまざまな角度から理解を深めることができるか。</p>	
3							備考		

※評価の観点 ①: 関心・意欲・態度 ②: 思考・判断・表現 ③: 資料活用の技能 ④: 知識・理解

◆学習方法のポイント

- あなたは、あなたが住む地球(世界)のことをどれだけ知っているでしょうか。
- もし、現在の人類統計比率をきちんと盛り込んで、全世界を100人の村に縮小する とどうなるでしょう。その村には・・・  
52人が女性です 48人が男性です  
80人は標準以下の居住環境に住み 70人は文字が読めません  
50人は栄養失調に苦しみ 1人が瀕死の状態にあり  
1人はいま、生まれようとしています
- もしこのように、縮小された全体図から私たちの世界を見るなら、相手があるがままに受け入れること、自分と違う人を理解すること、そして、そういう事実を知るための 教育がいかに必要かは火を見るよりあきらかです。  
『世界がもし100人の村だったら』より抜粋
- 21世紀を迎えた今日、地球上には60億を超える人類が暮らしています。その暮らしは多様であり、全てを知ることには到底できません。でも、わたしたちとは異なる暮らしを学ぶことによって、より広い視野で地球と世界の問題を見つめることができると思います。
- 地球と世界の現状を知り、未来を語る旅に出かけましょう！

【授業】

- 週に2回の授業があります。
- 基本的に1時間に1枚プリントを配り、教科書や地図帳を用いて基本的知識を身に付けます。  
→プリントをファイルもしくはノートに丁寧に保存することが大切です。
- 地理は「どこに何があるか」が基本(大前提)にある学問です。  
→普段から、地図帳を見る癖をつけておきましょう。
- 地理では、データや統計資料を活用して、作業学習や調べ学習を行います。  
→それを見て気付いたこと、読み取ったことなどをメモしておくことは理解への近道です。

【家庭学習】

- 地理は決して机上の空論ではありません。生きた学問です。  
→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことが大事です。

【定期考査】

- 授業で学んだことをきちんと理解できているか、理解しようと努力できているかを、みるためのテストです。  
→総じて言えることですが、定期テストは「できる・できない」ではありません。「やったか・やってないか」が問われます。「よし、もう大丈夫！」と自信が持てるまで繰り返し勉強してください。やればできる。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用の技能・表現 ④知識・理解の四つの 観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1 学期	単元テスト、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均